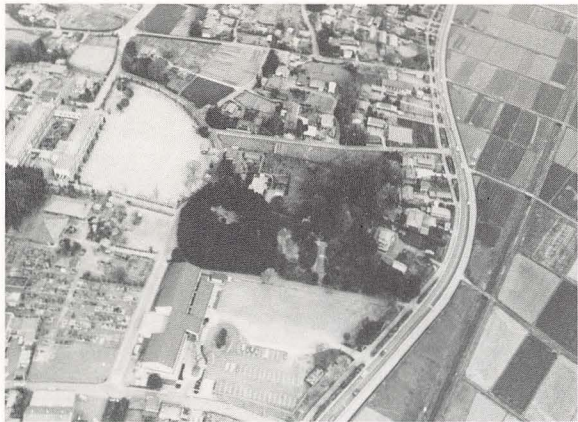


古墳詳細分布調査概報

1

1991

埼玉県教育委員会



東松山市 野本將軍塚古墳 航空写真



小川町 穴八幡古墳



嵐山町 稻荷塚古墳



川島町 東大塚古墳出土石棺



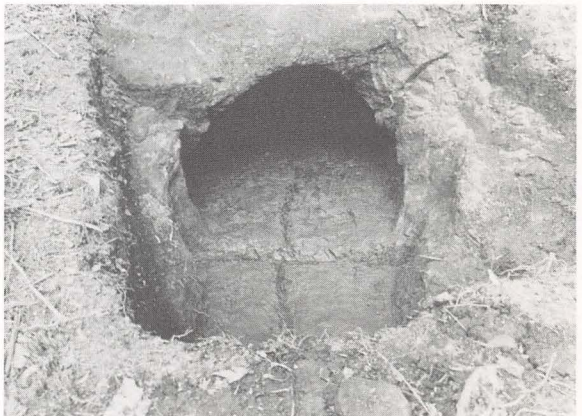
坂戸市 雷電塚古墳 第1トレンチ



毛呂山町 大類2号墳



東松山市 根岸稲荷神社古墳



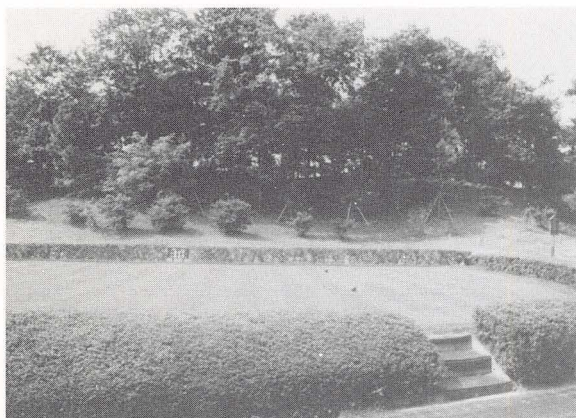
滑川町 天神山2号横穴墓



秩父市 飯塚招木古墳群



皆野町 大塚3号墳



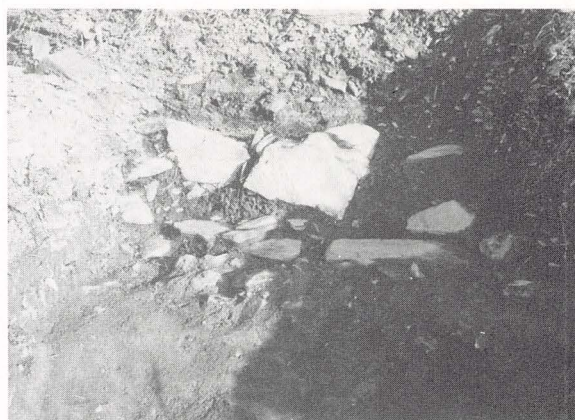
美里町 生野山16号墳



神川町 大塚稲荷古墳



吉田町 牧林古墳 第1トレンチ



皆野町 天神塚古墳 墳裾検出状況



児玉町 長沖157号墳掘検出状況



神川町 白岩銚子塚古墳前方部掘検出状況

例 言

1. 本書は、埼玉県教育委員会が文化庁の国庫補助金の交付を受けて、平成元年度から平成5年度にかけて実施する埼玉県内所在古墳詳細分布調査のうち、平成元年度及び2年度に行った調査の概報である。
2. 調査の期日は、平成元年4月から平成3年3月までである。
3. 調査主体は埼玉県教育委員会で、実施機関として埼玉県立さきたま資料館が当たった。調査は事務局を、県教育局指導部文化財保護課、埼玉県立さきたま資料館に置き、調査専門委員の指導のもとに、各地区調査員及び関係市町村教育委員会並びに地元地権者、住民の方々の協力を得て実施した。
4. 調査結果の整理、図版の作成、写真撮影は、県立さきたま資料館職員があたり、澤田秀実氏（法政大学大学院生）の協力を得た。
5. 本書の執筆、編集は県立さきたま資料館学芸課（課長谷井 彪、学芸員大和 修・若松良一）があたり、副館長中島利治が監修した。
6. 調査の対象は古墳であるが、古墳に類するもので、その可能性のあるものについては加えた。

目 次

例 言

1. 調査の概要	1
2. 調査実施要項	2
(1) 調査対象	2
(2) 全体の計画	2
(3) 平成元年度調査地区	2
(4) 平成2年度調査地区	2
(5) 調査方法	2
(6) 調査カード	3
3. 調査の組織	4
4. 概況調査について	5
(1) 平成元年度（入間・比企郡市）	5
(2) 平成2年度（秩父・児玉郡市）	5
(3) 資 料	6
・入間・比企郡市の古墳	
・平成元年度古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（入間・比企郡市）	
・秩父・児玉郡市の古墳	
・平成2年度古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（秩父・児玉郡市）	
5. 平成元年度試掘・測量調査について	8
(1) 雷電塚古墳（坂戸市）	8
(2) 大類2号墳（毛呂山町）	8
(3) 天神山古墳（東松山市）	10
(4) 根岸稲荷神社古墳（東松山市）	10
(5) 天神山横穴墓群（滑川町）	13
(6) 山の根古墳（吉見町）	13
6. 平成2年度試掘・測量調査について	15
(1) 狐塚古墳（秩父市）	15
(2) 天神塚古墳（皆野町）	15
(3) 牧林古墳（吉田町）	16
(4) 長沖157号墳（児玉町）	17
(5) 白岩銚子塚古墳（神川町）	17
7. おわりに	20

あとがき

1 調査の概要

埼玉県は首都東京に隣接しており、近年開発の波は県北部にまで及び、宅地化と工場進出により、その変貌には目を見張らせるものがある。

埼玉県教育委員会では、これらの開発行為に対処すべく、埋蔵文化財の保護・保存に努めてきており、昭和32年度から昭和40年度にかけて県内の古墳分布調査を実施した。しかしその後、新たに発見された古墳も多く、近年の各種の開発により遺構の破壊・消滅の恐れが懸念され、従来の資料では十分な対応が困難となった。

そこで、古墳の基礎資料を充実させるとともに、今後の開発行為等との調整を図るため、国の文化財保存事業費補助金を得て、平成元年度から5か年計画で、県下の古墳の所在確認のための調査を開始した。

初年度から4年間は、県下全域の調査と関連資料調査を行うこととし、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードから古墳を抜き出し、リストを作成した。調査カードは包蔵地カードをもとにして、古墳群調査カード、古墳調査カード、補助カードを作成した。

平成元年度の調査は、調査専門委員の先生方の指導、助言を得ながら、古墳の数に応じた16人の地区調査員と事務局で実施した。

地区調査員の方々には、担当地区の遺跡台帳やリストをもとに、踏査による現況写真を付けた古墳のカード作成等をお願いし、提出していただいた。

概況調査は、事務局で、6月から9月にかけて地区調査員および関係市町村教育委員会の協力のもとに実施した。これに基づいて、12月から翌年3月にかけて詳細調査を行った。

詳細調査は試掘・測量調査を行った。入間・比企郡市では6か所を選定し、まず古墳の墳形の確認のために平板測量を行い、周堀と墳裾等の確認のために数本のトレンチを設定した。

関連調査として、県交通政策課が実施しているヘリコプター等の利用の許可を受けて、空から数か所の古墳の写真撮影を行った。また、古墳に関連する文献資料の収集と地図・図面類の収集を行った。

平成2年度は、秩父・児玉郡市を対象とした。調査方法は前年度の入間・比企郡市と同様であったが、当初から踏査すべき古墳の多さ等に留意して実施した。地区調査員は15人の方をお願いした。

概況調査は6月から7月にかけて前年度よりやや早く実施した。これに基づく詳細調査として5か所を選定し、9月から翌年の1月にかけて試掘・測量調査を行った。調査は前年度の反省から、各々の古墳で十分な調査が可能となるように配慮して進めた。

(大和)

2 調査実施要項

(1) 調査対象

埼玉県所在の古墳、あるいは消滅したと推定される古墳、及び新たに発見された古墳跡等の他、関連遺構も対象とする。

(2) 全体の計画

年 度	調 査 地 区	関連資料調査
平成元年度	入間・比企郡市 (24市町村)	全 県
平成2年度	秩父・児玉郡市 (16市町村)	
平成3年度	北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市 (25市町村)	
平成4年度	北足立・大里郡市 (27市町村)	
平成5年度	全県補足調査及び調査報告書の作成	

(3) 平成元年度調査地区

現 地 調 査	入間郡市	川越市 所沢市 飯能市 狭山市 入間市 富士見市 上福岡市 坂戸市
		毛呂山町 越生町 日高町 大井町 鶴ヶ島町 三芳町 名栗村
	比企郡市	東松山市 小川町 嵐山町 川島町 吉見町 鳩山町 滑川町 玉川村
		都幾川村
関連資料調査	全 県	

(4) 平成2年度調査地区

現 地 調 査	秩父郡市	秩父市 吉田町 小鹿野町 長瀨町 皆野町 横瀬町 大滝村 荒川村
		両神村 東秩父村
	児玉郡市	本庄市 児玉町 上里町 美里町 神川町 神泉村
関連資料調査	全 県	

(5) 調査方法

ア 事務局の調査員の調査

・概況調査

埼玉県埋蔵文化財包蔵地調査カードに記載された古墳を抜き出し、リストを作成し、それに基づいて現状調査を進める。

・詳細調査

概況調査に基づき、現状の墳形確認のために平板による測量調査を実施し、さらに遺構の遺存状況等を試掘調査で確かめる。

・関連資料調査

古墳に関する報告書等の文献、及び発掘調査等で知られる遺構・遺物に関する資料の収集・整理。

イ 地区調査員の調査

担当地区の古墳について現地調査し、現況の写真撮影を行い、調査カードを作成する。

(6) 調査カード

埼玉県所在古墳群調査カード

埼玉県所在古墳群調査カード

県番号	名称		所在地	郡	市町村
市町村番号					
整理番号	指定	国 県 市町村	重要遺跡		
墳形	円墳 前方後円墳 その他()	基 基 計	方墳	基 基	備考
立地					
調査歴		調査古墳			
年月日～年月日					
年月日～年月日					
年月日～年月日					
年月日～年月日					
年月日～年月日					
調査者			調査年月日	年月日～年月日	

埼玉県立さきたま資料館

埼玉県所在古墳調査カード

埼玉県所在古墳調査カード

県番号	名称		所在地	郡	市町村
市町村番号					
整理番号	指定	国 県 市町村	重要遺跡		
地目	山林 原野 畑 田 宅地	その他()			
立地	山地 丘陵 台地	自然堤防 低地			
墳形	円墳 方墳 前方後円墳	その他()			
規模	全長(直径・辺長)		高		備考
外部施設	埴輪	有・無・不明	葺石	有・無・不明	
周堀	有・無・不明()				
埋葬施設	横穴式石室・竪穴式石室・粘土槨・箱式石棺・その他()				
出土遺物					
文献	調査歴				
	測量図	有 無	縮尺		
調査者			調査年月日	年月日～年月日	

埼玉県立さきたま資料館

3 調査の組織

平成元年度

事業主体者

埼玉県教育委員会 教育長 竹内 克好

実施機関

埼玉県立さきたま資料館 館長 角田 蔵夫

事務局

埼玉県教育局指導部文化財保護課
 課長 百瀬 陽二
 主幹兼課長補佐 横川 好富
 専門調査員兼埋蔵文化財係長 増田 逸朗
 庶務係長 保永 清光
 主査 高橋 一夫
 主任 小野 正博
 主事 上木 孝子

埼玉県立さきたま資料館
 館長 角田 蔵夫
 副館長 中島 利治
 庶務課長 渡辺 秀雄
 主任 柿沼 房雄
 主任 松本 幸子
 主任 川崎 栄一

調査専門委員

埼玉県文化財審議委員 柳田 敏司
 埼玉県文化財審議委員 小林 茂
 埼玉考古学会副会長 金井塚良一

地区調査員

田中 信 (川越市)
 飯田 充晴 (所沢市)
 小淵 良樹 (狭山市・飯能市・入間市・名栗村)
 加藤 恭朗 (坂戸市)
 大谷 徹 (毛呂山町・越生町)
 村木 功 (毛呂山町・越生町)
 西川 制 (鶴ヶ島町)
 笹森 健一 (上福岡市・富士見市・三芳町・大井町)
 宮嶋 秀夫 (東松山市)
 田中 広明 (川島町・吉見町)
 高橋 好信 (小川町・都幾川村)
 植木 弘 (嵐山町・玉川村)
 金井塚厚志 (鳩山町) 江原昌俊 (東松山市)
 中平 薫 (日高町) 木村俊彦 (滑川町)

調査員

埼玉県立さきたま資料館 学芸課長 谷井 彪
 主査 駒宮 史朗
 学芸員 柳 正博
 学芸員 石川 博行
 学芸員 若松 良一

協力機関等

川越市教育委員会 所沢市教育委員会
 飯能市教育委員会 狭山市教育委員会
 入間市教育委員会 富士見市教育委員会
 上福岡市教育委員会 坂戸市教育委員会
 毛呂山町教育委員会 越生町教育委員会
 日高町教育委員会 大井町教育委員会
 鶴ヶ島町教育委員会 三芳町教育委員会
 名栗村教育委員会 東松山市教育委員会
 小川町教育委員会 嵐山町教育委員会
 川島町教育委員会 吉見町教育委員会
 鳩山町教育委員会 滑川町教育委員会
 玉川村教育委員会 都幾川村教育委員会
 関係土地所有者各位 地元関係者各位

平成2年度

事業主体者

埼玉県教育委員会 教育長 竹内 克好

実施機関

埼玉県立さきたま資料館 館長 大村 進

事務局

埼玉県教育局指導部文化財保護課
 課長 早川 智明
 主幹兼課長補佐 横川 好富
 埋蔵文化財係長 高橋 一夫
 庶務係長 千村 修平
 主査 水村 孝行
 主任 小野 正博
 主事 上木 孝子

埼玉県立さきたま資料館
 館長 大村 進
 副館長 中島 利治
 庶務課長 小林 栄一
 主任 柿沼 房雄
 主任 松本 幸子

調査専門委員

埼玉県文化財審議委員 柳田 敏司
 埼玉県文化財審議委員 小林 茂
 埼玉考古学会副会長 金井塚良一

地区調査員

堀 宏行 (秩父市) **新井俊男 (吉田町)**
 橋本 康司 (小鹿野町)
 斉藤 秀夫 (長瀨町)
 菊地 伸之 (皆野町)
 新井 倫男 (荒川村)
 深田 芳行 (秩父市)
 佐藤 好司 (本庄市)
 鈴木 徳雄 (児玉町)
 外尾 常人 (上里町)
 丸山 修 (上里町)
 長滝 歳康 (美里町)
 坂本 和俊 (美里町)
 田村 誠 (神川町)
 金子 彰男 (神川町)

調査員

埼玉県立さきたま資料館 学芸課長 谷井 彪
 学芸員 大和 修
 学芸員 石川 博行
 学芸員 若松 良一
 学芸員 田中 裕子

協力機関等

秩父市教育委員会 吉田町教育委員会
 小鹿野町教育委員会 長瀨町教育委員会
 皆野町教育委員会 横瀬町教育委員会
 大滝村教育委員会 荒川村教育委員会
 両神村教育委員会 東秩父村教育委員会
 本庄市教育委員会 児玉町教育委員会
 上里町教育委員会 美里町教育委員会
 神川町教育委員会 神泉村教育委員会
 関係土地所有者各位 地元関係者各位

4 概況調査について

(1) 平成元年度(入間・比企郡市)

調査対象地域である入間・比企郡市は、県土の中央から南西部に位置し、秩父山地から派生する丘陵と台地を主体とした、地形的変化に富む地域である。このため、小河川に沿った可耕地が早くから開拓され、弥生時代には、中期の櫛描文土器、宮の台式土器、後期を中心とする吉ヶ谷式土器、岩鼻式土器などを出土する数多くの集落が営まれた。こうした生産基盤の整備と人口の増加に支えられて、地域首長の成立が促進されたため、古墳の出現は県下でも、もっとも古い地域の一つとなり、前期から後期、終末期に至る多数の古墳がこの地域に分布している。

比企地方に限ると、東松山市と滑川町は古墳数において群を抜いている。調査前に埼玉県遺跡地名表及び文化財保護課所在のカードから算出した数は、東松山市165基、滑川町77基であった。これに対して、今回各教育委員会の協力を得た結果、東松山市414基、滑川町314基となり、予想外の増加がみられた。増加の原因は、大規模な開発がこの地域に及んで、発掘調査された古墳が増えたことも一因ではあるが、何よりも、地区調査員の努力で、発見の難しい丘陵地山林内の古墳が十分に踏査されたことによっている。

比企郡市では、このほか嵐山町が調査前の46基から157基に増加していることが注目される。小川町・川島町・吉見町・鳩山町では10～26基の古墳が報告された。数の上では決して多くはないが、前期の前方後方墳や後期の巨石横穴式石室をもつ古墳が含まれていることは見逃すことができない。

入間郡市については、坂戸市から毛呂山町にかけた地域が最も古墳の集中する地域であり、調査前に坂戸市169基、毛呂山町57基が知られていた。概況調査の結果、坂戸市では塚などの可能性の強いものを除外することによって147基に減少したが、毛呂山町では、新発見の古墳が加わり、96基に増加している。このほか入間郡市では、川越市の52基が注目される。(若松)

(2) 平成2年度(秩父・児玉郡市)

平成2年度の対象地域は、秩父・児玉郡市であり、埼玉県の西部、秩父山地に囲まれた、秩父盆地を中心とする秩父郡市と、神流川の対岸には、東山道沿いに古代から先進地域として開けた上毛野を望む、児玉郡市とがある。これらの段丘上や、丘陵上には、豪族の残した古墳群が県内では比企地方と共に、非常に多い。

今回の調査では、これら、現存する古墳と共に既に消滅してしまった古墳や、近年の発掘調査等に伴って、古墳跡等が発見され、かつて存在したことがわかった古墳についてもカード化することになった。秩父郡市での概況調査では、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードからリストを作成したところ、126基の群集墳からなる飯塚招木古墳群のある秩父市で、160余基を数えた。しかし、保存状態のよい当該古墳群を除けば、上記カードと同定の困難な古墳も少なくない。また、秩父郡市では、皆野町など、市町村独自の分布調査も行われており、おおよその古墳について把握がなされていることもあって、今回の調査でも、古墳総数の増減はあまりなかった。

児玉郡市での概況調査では、上記の包蔵地カードからは、古墳群全体としては把握されているものの、各々の古墳について、細かい所存が明らかでないため、包蔵地カードと古墳カード記載の古墳の同定が難しいと思われた例が非常に多い。また、近年の発掘調査により、古墳跡も数多く発見されたことや、分布調査も行われたことから、古墳の数がリスト化した時点の倍近くにもなっている例もある。

秩父郡市の現地調査では、低墳丘の積石塚とよばれるものも多くが古墳とされており、踏査時には消滅してしまっていたり、前カードとの同定が困難なことなど、様々な問題があり、今後検討すべき塚も多かった。

(大和)

(3) 資料

入間・比企郡市の古墳

入間郡市	古墳数	比企郡市	古墳数
川越市	52	東松山市	414
所沢市	15	小川町	26
飯能市	0	嵐山町	157
狭山市	25	川島町	10
入間市	0	吉見町	20
富士見市	2	鳩山町	15
上福岡市	1	滑川町	314
坂戸市	147	玉川村	0
毛呂山町	96	都幾川村	0
越生町	17	合計	956
日高町	7		
大井町	0		
鶴ヶ島町	22		
三芳町	0		
名栗村	0		
合計	384		

平成元年度 古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（入間・比企郡市）

郡	市町村	主要古墳（群）名	試掘・測量調査
入間郡市	川越市	下小坂古墳群、どうまん塚古墳、牛塚古墳、南大塚古墳群、山王塚古墳、仙波古墳群、慈眼堂古墳、三変稲荷神社古墳、岸町横穴群	
	所沢市	滝之城横穴墓群、北秋津横穴墓群	
	狭山市	上広瀬古墳群、笹井古墳群、稲荷山公園古墳群	
	富士見市	貝塚山遺跡	
	上福岡市	川崎横穴墓群	
	坂戸市	中小坂古墳群、雷電塚古墳、勝呂古墳群、胴山古墳、善能寺古墳群、北峰古墳群、山王塚古墳、成願寺古墳群	雷電塚古墳
	毛呂山町	大類古墳群、川角古墳群、西戸古墳群	大類2号墳
	越生町	谷ツ古墳群、入古墳群	
	日高町	藤塚古墳	
鶴ヶ島町	鶴ヶ丘稲荷神社古墳		
比企郡市	東松山市	諏訪山古墳群、毛塚古墳群、高坂古墳群、古凍古墳群、亀塚古墳、天神山古墳、柏崎古墳群、おくま山古墳、野本將軍塚古墳、附川古墳群、下唐子古墳群、冑塚古墳、若宮八幡古墳、西原古墳群、江島の面古墳群、三千塚古墳群、雷電山古墳、弁天塚古墳、秋葉塚古墳、長塚古墳、根岸稲荷神社古墳、岩鼻古墳群、	天神山古墳 根岸稲荷神社古墳
	小川町	新田古墳群、草加古墳群、西ヶ谷戸古墳群、行人塚古墳群、平松台古墳群、穴八幡古墳	
	嵐山町	栗津ヶ原古墳群、古里古墳群、岩根沢横穴墓群、屋田古墳群、天神山古墳群、稲荷塚古墳、山王古墳群	
	川島町	白山古墳、東大塚古墳	
	吉見町	吉見百穴、久米田古墳群、山の根古墳群、黒岩横穴墓群	山の根古墳
	鳩山町	十郎横穴墓群	
	滑川町	月輪古墳群、天神山横穴墓群、円正寺古墳群、天神前古墳群、菖蒲沼古墳群、ゴエモン塚古墳群、後谷古墳群、中山古墳群、西山古墳群、糟沢古墳群、栗谷古墳群、矢崎古墳群、馬場古墳群、東両表古墳群、大谷古墳群	天神山横穴墓群

秩父・児玉郡市の古墳

秩父郡市	古墳数	児玉郡市	古墳数
秩父市	163	本庄市	130
吉田町	47	児玉町	198
小鹿野町	19	上里町	90
長瀨町	15	美里町	201
皆野町	26	神川町	261
横瀬町	0	神泉村	0
大滝村	0	合計	880
荒川村	10	(平成2年12月1日現在)	
両神村	0		
東秩父村	0		
合計	280		

平成2年度 古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（秩父・児玉郡市）

郡	市町村名	主要古墳（群）名	試掘・測量調査
秩父郡市	秩父市	飯塚招木古墳群、大野原古墳群、金室古墳群、大塚古墳、狐塚古墳、氷雨塚古墳	狐塚古墳
	吉田町	取方古墳群、芦田古墳群、太田部古墳群、牧林古墳	牧林古墳
	小鹿野町	山の神古墳、姥塚古墳、氷雨塚古墳、丸山塚古墳	
	長瀨町	上長瀨古墳群、愛宕塚古墳、浅間山古墳	
	皆野町	金崎古墳群、大塚1～3号墳、天神塚古墳、内手古墳群、中之芝古墳群、円墳大塚古墳、大淵古墳	天神塚古墳
	荒川村	正将塚古墳	
児玉郡市	本庄市	西五十子古墳群、大久保山古墳群、公卿塚古墳、旭・小島古墳群、三笠山古墳	
	児玉町	長沖古墳群、十兵衛塚古墳、秋山古墳群、庚申塚古墳、諏訪山古墳、鷺山古墳、生野山古墳群	長沖157号墳
	上里町	浅間山古墳、旭・小島古墳群、東堤古墳群、帯刀古墳群、大御堂古墳群	
	美里町	塚本山古墳群、普門寺古墳群、羽黒山古墳群、白石古墳群、広木大町古墳群、諏訪山古墳群、諏訪山古墳、長坂聖天塚古墳、川輪聖天塚古墳、生野山古墳群、生野山銚子塚古墳、生野山物見塚古墳、生野山將軍塚古墳、生野山16号墳	
神川町	四軒在家古墳群、元阿保古墳群、稲荷神社古墳、関口古墳群、姫塚古墳、植竹古墳群、北塚原古墳群、南塚原古墳群、二の宮古墳群、城戸野古墳群、十二ヶ谷戸古墳群、海老ヶ久保古墳群、白岩古墳群、白岩銚子塚古墳、中新里諏訪山古墳	白岩銚子塚古墳	

5 平成元年度試掘・測量調査について

平成元年度の調査は、各地域の代表的な前方後円墳の雷電塚古墳、大類2号墳、天神山古墳、墳形から古式と思われる根岸稻荷神社古墳、山の根古墳、近年、その重要性が判明しつつある天神山横穴墓群を対象とした。試掘・測量調査は、平板測量を行って、墳形を確認すると共に、遺構・遺物の検出のために数本のトレンチを設定して進めた。

(1) 雷電塚古墳

所在地 坂戸市大字小沼269

立地 雷電塚古墳は、東武東上線坂戸駅の東方約2.7kmの、標高18mの坂戸台地の末端に位置する。台地の縁からはやや奥まっているが、北側には越辺川の沖積地を望む。前方部から約10m程のところにも痕跡程度の古墳があるほか、周囲には4基の古墳があり、雷電塚古墳群と呼ばれている。

現況 この地域の代表的な前方後円墳として、昭和31年に県指定史跡となった。墳丘の規模は全長47m、前方幅23m、後円部の直径25.5m、高さは前方部3.25m、後円部4.5mである。後円部には小祠があるが、東側は山林で、保存状態は良い。墳丘西側の裾は、畑地との境となる深い根切り溝で削られていた。

調査の概要 調査は墳丘東側くびれ部に第1トレンチ、前方部に第2トレンチを設定して進めた。第1トレンチは幅2m、長さ11.5mで、幅9.8mの周堀が検出された。墳丘裾は垂直に近い立ち上がりであったが、周堀外側の傾斜はやや緩かった。第2トレンチで検出された周堀は、幅が狭く、5.5mであった。深さも浅く、墳丘側で、1.2mであった。外側の立ち上がりの傾斜は、くびれ部に比べてもさらに緩かった。この結果、周堀の形態は盾型とならず、墳丘に沿うように同じ幅でめぐっている可能性が高い。

発見された遺物は、多量の円筒埴輪のほか、朝顔形埴輪片、形象埴輪片、須恵器片がある。出土量はくびれ部が圧倒的に多かった。築造年代は墳形や出土した埴輪から6世紀中頃と推定される。(谷井)

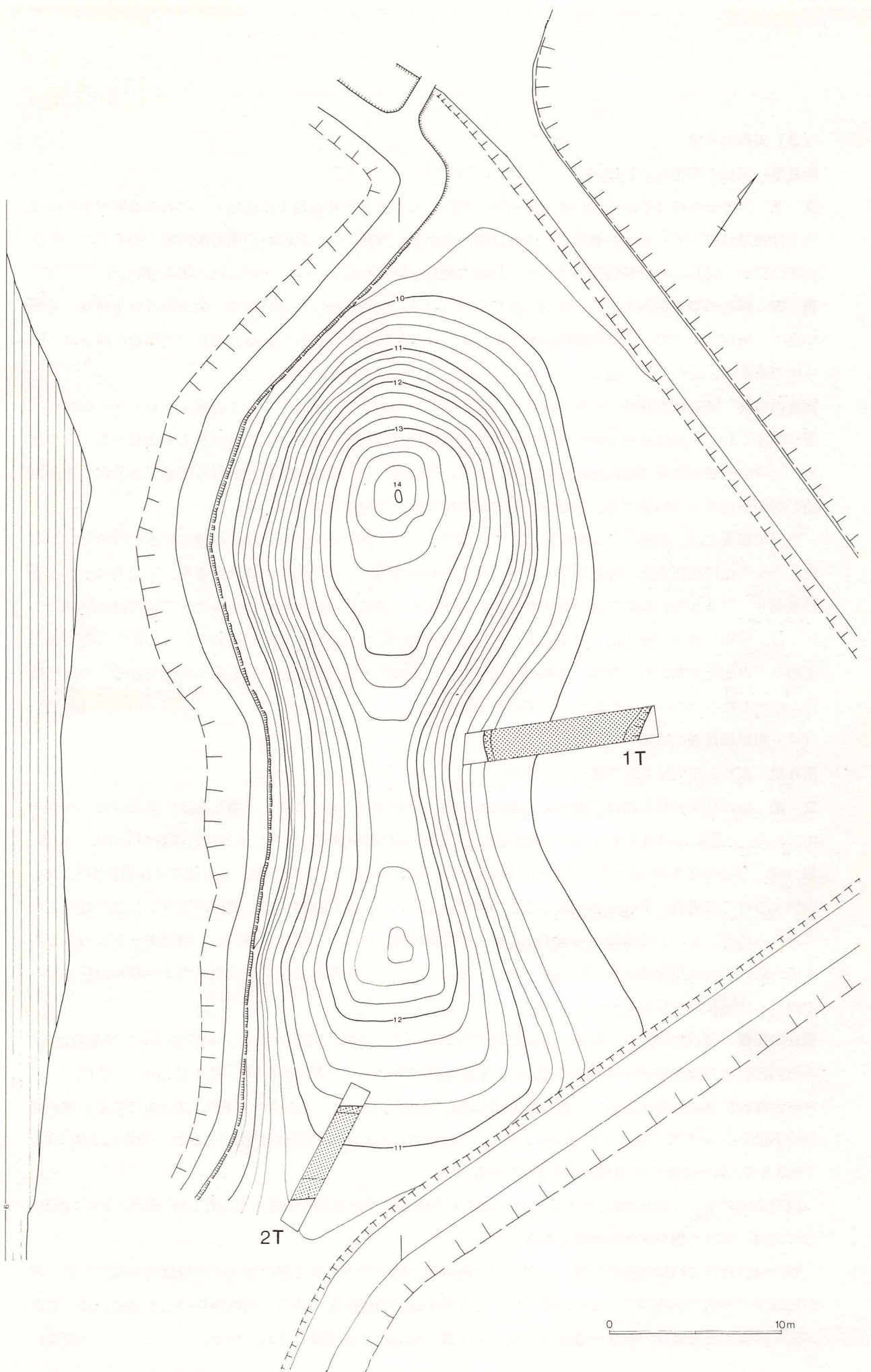
(2) 大類2号墳

所在地 入間郡毛呂山町大字川角字塚原2219

立地 越辺川の右岸の坂戸台地上にある。台地の西側には5m下がった段丘が広がる。台地は広い平坦地が続く、毛呂山町には2基の前方後円墳を中心とした39基の大類古墳群、隣接した坂戸市域には3基の前方後円墳を含む13基からなる塚原古墳群がある。

現況 古墳の周囲は全て畑地で、墳丘の周りは開墾され、前方部と後円部の中心を残すのみで、本来の形が想像できないほど変形していた。現況の墳丘の長さは26m、幅8.5m、後円部の高さ2.2mである。墳丘には多量の川原石が積まれていることから、葺石で覆われていた可能性が高い。

調査の概要 東西に長い墳丘に対して、墳丘東端で南方方向に第1トレンチ、南側くびれ部に第2トレンチ、北側に第3トレンチを設けた。幅2m、長さ11mの第1トレンチでは幅2.6mの周堀が検出された。トレンチの端では隣接する円墳の周堀と思われる溝も見つかっている。第2トレンチでは基盤がローム層ではなく、暗褐色土のため、周堀ははっきりしなかったが、土層断面から3m程が予想された。第3トレンチでは掘り込みが最も深く、調査範囲内では周堀外側の立ち上がりが検出できなかったことから、幅は7.5m以上である。発見された遺物は第1トレンチで土師器坏が出土したほか、第3トレンチを中心に埴輪が多量に出土しているほか、須恵器大甕片等もみられた。古墳の築造年代は土師器坏の特徴から6世紀前半から中ばと考えられる。(谷井)



第1図 坂戸市雷電塚古墳全体図

(3) 天神山古墳

所在地 東松山市柏崎134-12

立地 天神山古墳は松山台地が東方に向かって長く張り出す舌状台地上に占地し、北側には東流する市の川と沖積地が迫っている。古墳周辺の標高は26mである。周囲には全長62mの前方後円墳である、おくま山古墳のほか、15基の円墳が現存しており、柏崎古墳群と呼ばれているが、消滅した古墳も多い。

現況 墳丘の東半が削平され、住宅が建てられている。主軸はほぼ南北方向で、全長約57mを測り、北側が高く、南側は低平で、くびれる部分があるため、前方後円墳とみられている。現状での墳丘の高さは、約4mであるが、近所の人の話では、かつては倍くらいの高さがあったという。

調査の概要 調査は西側の平坦地に設けた4本のトレンチのうち、第3トレンチと第4トレンチで周堀の一部が検出され、外側の立ち上がりラインが内側に直角に近い状態で屈曲することが明らかとなった。このため、天神山古墳の周堀は墳丘と相似形に掘られているとみられ、ほぼ同規模の前方後円墳であるおくま山古墳の馬蹄形周堀とは相違することから、前方後方墳であった可能性がありうる。

今回の調査では、墳裾ラインを検出することができなかつたため、墳形と規模を確定するには至らなかつた。今後の範囲確認調査の継続が望まれる。発見された遺物は少量であり、縄文土器片、五領式の土師器壺口縁部片、鬼高式のいわゆる比企型土師器坏片があるが、埴輪片は検出されなかつた。古墳の築造時期については、昭和の初期、村人たちの手によって土採りされた際に石室状の遺構が認められ、仿製内行花文鏡と玉類などが出土したから、今回、埴輪の検出がなく、五領式土器（墳丘上からも広く表採できる）の大形破片が出土したことから、4世紀代まで遡る可能性がある。（若松）

(4) 根岸稻荷神社古墳

所在地 東松山市大字古凍字根岸1156ほか

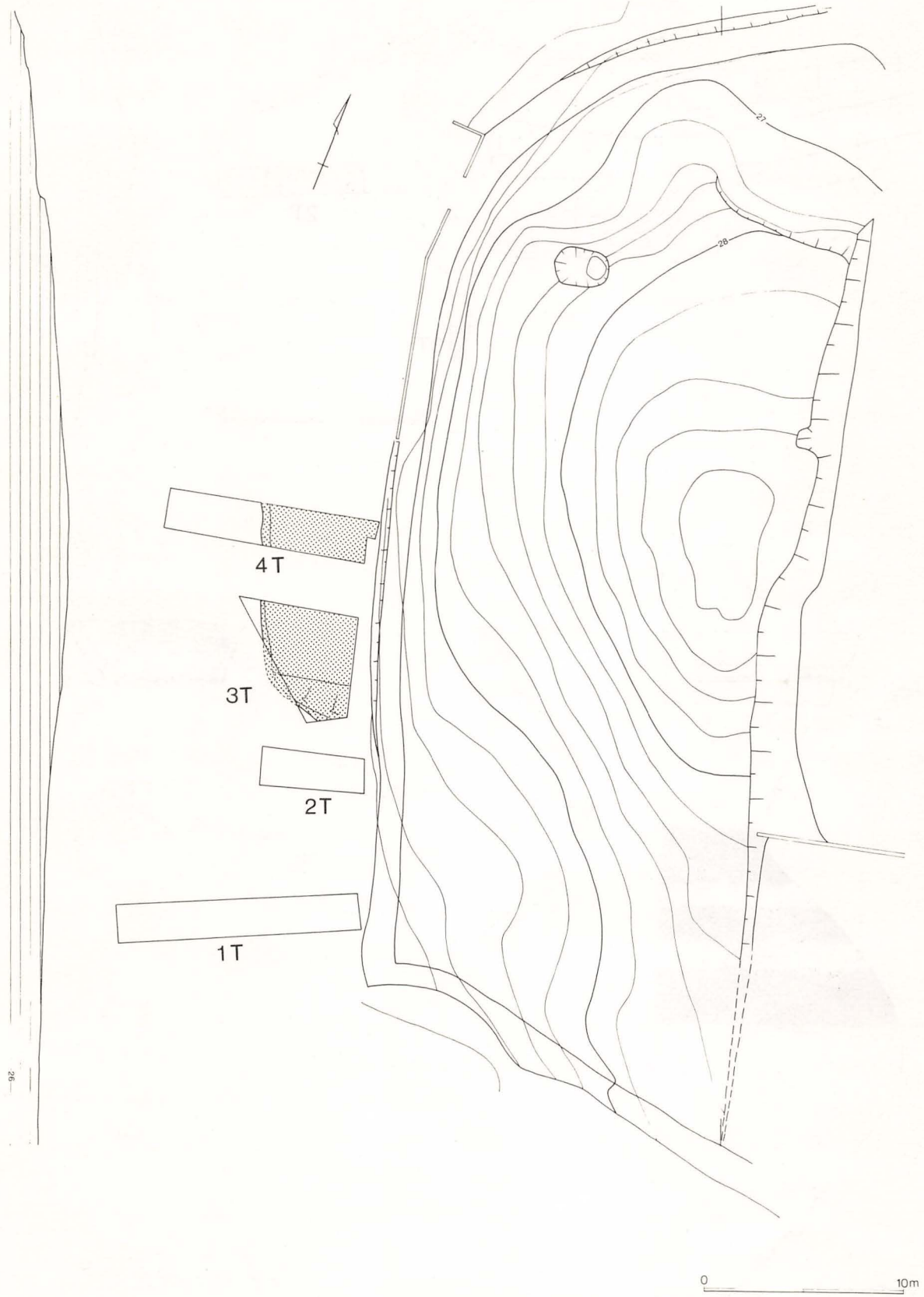
立地 根岸稻荷神社古墳は、東松山市南東部の新江川を望む台地上にあり、墳丘裾部の標高は19.4～19.6mである。対岸には円墳と帆立貝式古墳を含む計22基（昭和37年調査）からなる古凍古墳群が分布している。

現況 古墳の高さは1.6mで、平面形は南北15m、東西15mの正方形である。墳頂部には稻荷社が祀られ、南側にむけて参道が、墳丘を若干削りこむ状態でのびている。また東側には、墳裾に造り出し状の盛り上がりが見られる。その上に東側から通ずる旧参道の痕跡が残っている。墳丘の西側は、墳裾ギリギリのところまで、新江川の河川改修工事で削られ、断崖状となっている。また墳丘の東側も比高差5～6mの崖となっており、崖下には民家がある。

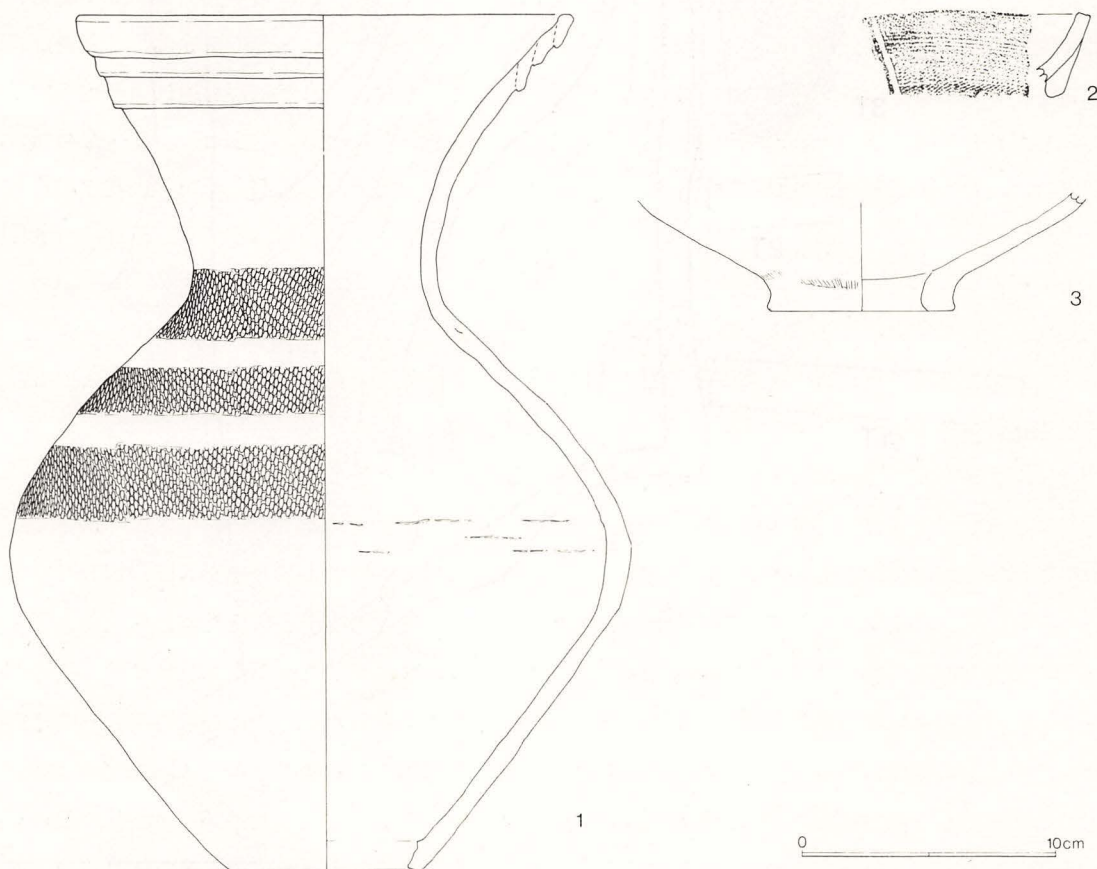
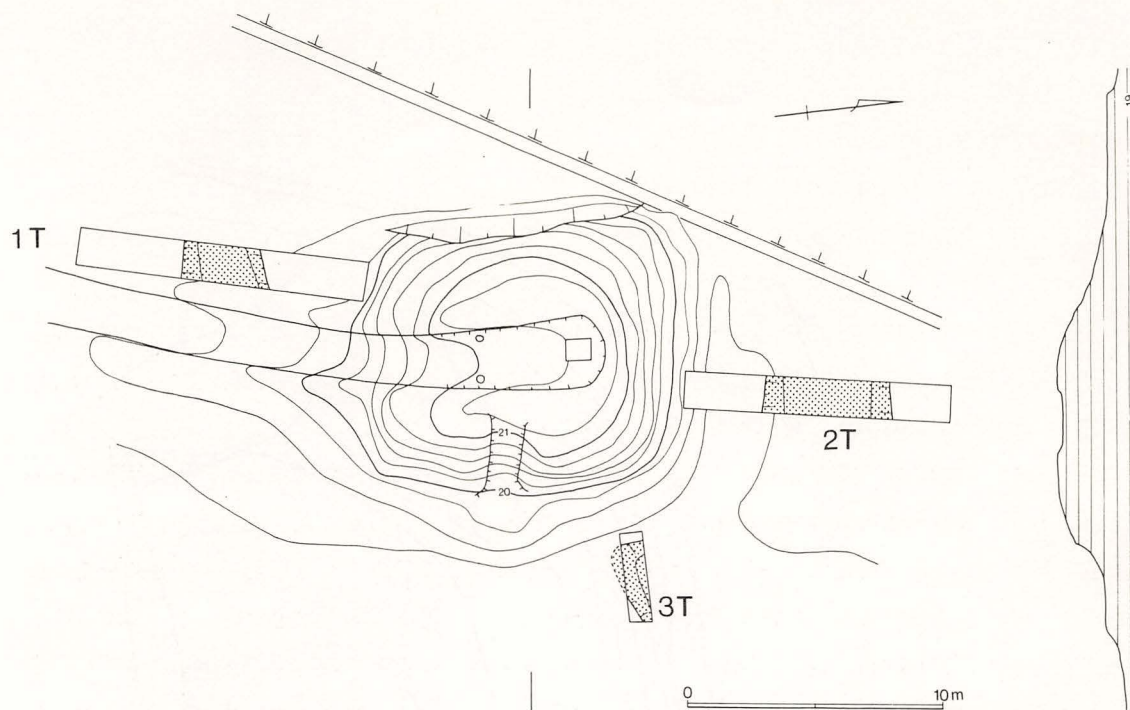
調査の概要 調査は墳丘から周囲の平坦地にかけるかたちで北側、東側、南側の3か所にトレンチを設定し、古墳の形状と規模を確認することに努めた。墳丘南側の第1トレンチは幅1.5m、長さ11.5mで、墳裾から4mほど離れて周堀が検出された。周堀は上幅3.5m、下幅2.3m、ローム面からの深さは0.8mである。墳丘北側の第2トレンチは、幅1.5m、長さ10.5mで、墳裾から2.3m離れて周堀が検出された。周堀は上幅5m、下幅3.5m、ローム面からの深さは0.9mである。

墳丘東側の第3トレンチは、造り出し状のふくらみを調査する目的で設定した。幅1m、長さ3.5mである。ここでは、くびれ部が明瞭に検出された。

根岸稻荷神社古墳は調査の結果、小型の前方後方墳と推定でき、後方部は20×20m程度の規模である。前方部先端は不明であるが、くびれ部幅7m、長さ5m以上の規模となろう。周堀からの出土遺物には、吉ヶ谷式系の壺1と五領式の壺2・3とがあり、1・3は焼成後に底部穿孔されている。（若松）



第2図 東松山市天神山古墳全体図



第3図 東松山市根岸稲荷神社古墳全体図
及び出土土器実測図

(5) 天神山横穴墓群

所在地 比企郡滑川町大字福田字中在家3218-3ほか

立地 天神山横穴墓群は荒川大橋の南方約2kmの熊谷東松山有料道路沿いに位置し、谷田を臨む低位丘陵の南西斜面に分布している。丘陵麓の標高は52mで、最高所の標高は68.9mである。

現況 調査時での開口横穴は1基で、玄室の規模が大きく、棺台が設けられている。これを1号横穴墓と呼称することにした。1号横穴墓の南東側は比較的丘陵の傾斜がゆるやかで、表面が土壌に覆われているが、北西側は急で、砂質泥岩の基盤層の露出する部分も認められた。

調査の概要 当初、新規の横穴墓を発見すべく、1号横穴墓の南東傾斜面の中腹に幅2m、長さ15mのトレンチを設定したが、砂質泥岩の基盤層の検出にとどまり、横穴は発見されなかった。このため、かつて開口していたが、戦後埋めもどした横穴があるとの地元の人の情報から、1号横穴の北西約16mの丘陵麓部の調査を実施した。その結果、比較的小規模な横穴墓が一基検出され、これを2号横穴墓と呼んだ。玄室の平面形は胴張り長方形で、幅1.64m、長さ1.98mで、天井部はカマボコ形に作られていた。玄門部には閉塞石をはめ込んだと推定される溝が切られていた。羨道部の平面形は、いったんくびれてから開く形態をとり、最も狭まった部分の幅0.86m、長さ1mである。玄室の中央部から羨道部の中軸線上には水抜き溝が掘られ、玄室と羨道の床面も外側に向けて傾斜をもたせる配慮がみられた。1号横穴は、玄室内に土砂が再堆積していたため、清掃し、実測図を作成することとし、羨道部の発掘調査を実施した。玄室の平面形は胴張り方形で、幅2.44m、長さ2.44mを測り、玄門側の壁面は内彎している。玄室の左側壁に接して、掘り残した棺台が設けられていた。玄室の天井部は2号横穴墓と異なり、アーチ形で、中央部が最も高く、1.56mある。羨道部は下端幅0.44mと狭く、中心に排水路が掘られている。羨道部の前方には、南側に屈曲して墓道が設けられており、両者の境界には閉塞石がわずかに残っていた。3号横穴は、2号横穴の北西10mの地点で閉塞された状態が確認できたが、今後の保存を考えて、これ以上の調査をひかえることとした。1・2号横穴墓は盗掘されていたため玄室内の遺物は皆無であったが、1号横穴墓の閉塞石付近から須恵器大甕の小片が1点検出された。(若松)

(6) 山の根古墳

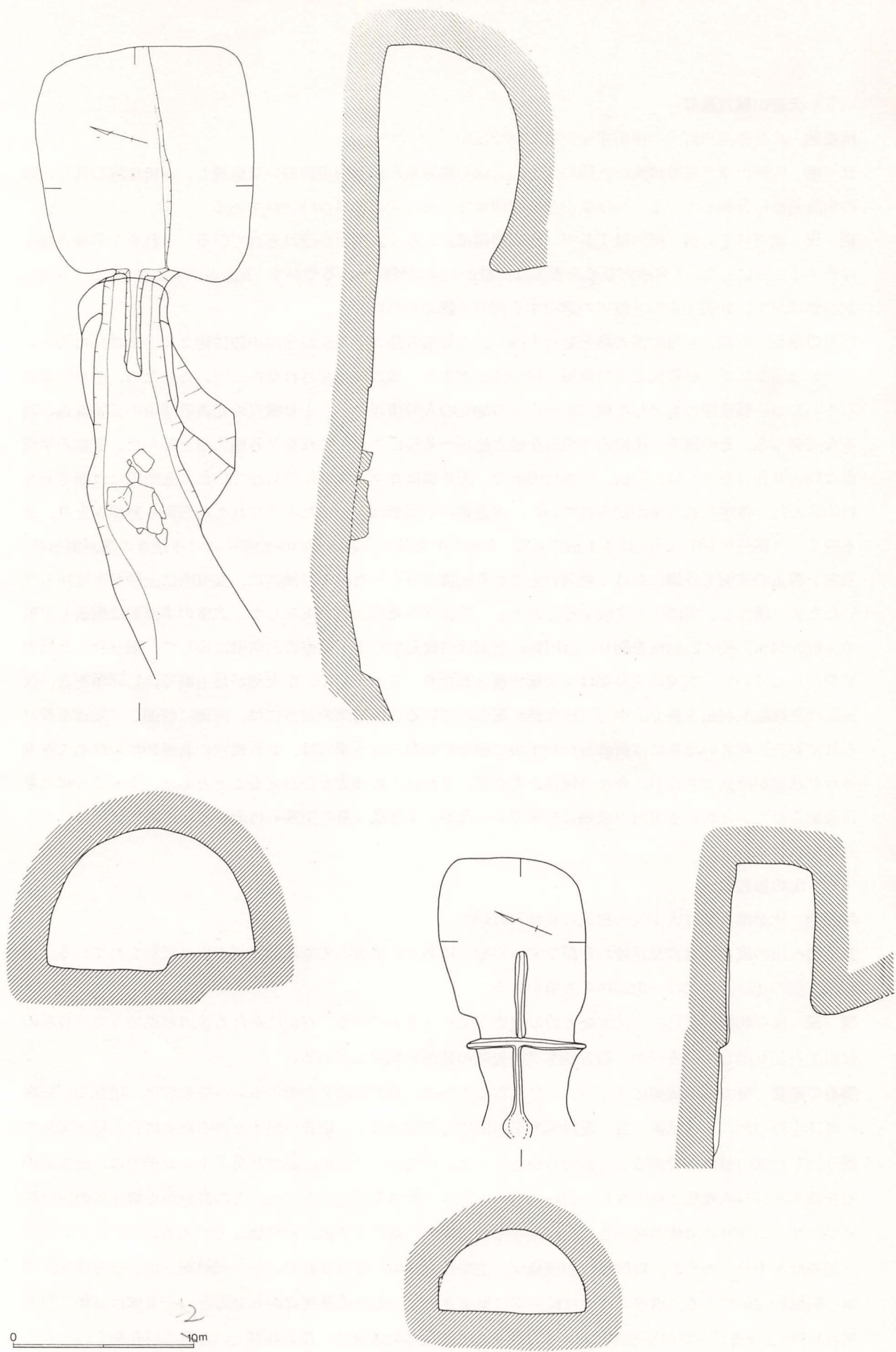
所在地 比企郡吉見町大字久米田五の耕地746ほか

立地 山の根古墳は吉見丘陵から派生する尾根上にあり、尾根の先端に前方部を向けて築かれている。山の根古墳の北西35mには一辺25mの方墳がある。

現況 保存状態が良好で、前方後方形の墳形をよくとどめている。谷側にあたる後方部東墳丘部は自然の傾斜面を削り出しているほか、前方部も尾根先端の地形を利用している。

調査の概要 後方部の周囲に4か所、くびれ部に1か所、前方部に2か所のトレンチを設け、墳丘及び周堀の確認を行った。その結果、谷と反対側の平坦面にも周堀はなく、墳丘の盛土を得るために白色粘土層まで削り出した地山整形面であることが明らかとなった。西側のくびれ部に設けた第7トレンチでは、後方部の墳丘裾ラインが直線的に検出され、これに沿ってテラス状の平坦面があった。この部分から墳丘外の地山面にかけて、かなりの遺物が検出された。主なものに高坏、壺の下半部、台付甕などがある。

調査は不十分であるが、現段階での規模は、主軸長54.8m、後方部長33.6m、同幅26.2m、前方部長21.2m、同幅19.2mである。墳丘の高さは傾斜面に築造されているため基底部から計ると、後方部は3m、前方部は1.9mとなる。古墳の築造年代は、くびれ部から出土した高坏が、深い坏部と、6個の円孔をもつ大きく開く脚部などから、五領式の中でも新しくならず、4世紀代が考えられる。(若松)



第4図 滑川町天神山1号横穴墓実測図(上)・天神山2号横穴墓実測図(下)

6 平成2年度試掘・測量調査について

平成2年度の調査は、規模が大きい内容の不明な、狐塚古墳、牧林古墳、長沖157号墳、白岩銚子塚古墳、秩父郡市で唯一、埴輪をもつとされる天神塚古墳を対象とした。試掘・測量調査は、平板測量による墳形、規模の確認と、数本のトレンチによる遺構、遺物の検出を行った。

(1) 狐塚古墳

所在地 秩父市大字影森字下原

立地 荒川右岸の河岸段丘の古墳で、河岸からは約100m奥まっている。標高242mで、周囲には平坦地が広がる。荒川沿いの秩父の谷筋では最も西端の古墳だが、周囲に古墳は存在しない。しかし、周囲で土器片や石斧等が拾えるものの古墳時代に関わる遺物はまったく採集されておらず、詳細は不明とされていた。

現況 墳丘の周囲にも宅地化が及び西から東側の墳丘裾まで宅地となっている。墳丘頂部に稲荷社が祀られ、若干削平されているが、保存状態は良い。最も崩れが大きいのは南東隅から東辺で、動物の巢やむろが掘られていた。北東隅、南西隅には本来の形がうかがえた。各辺とも直線ぎみであり、一辺が24mの方形の墳丘と思われる。墳丘の傾斜は下半が急傾斜、上半がやや緩かになるが、通常古墳に比べれば、傾斜がきついいえよう。

調査の概要 調査は東辺に直交して2本のトレンチ、南辺に1本のトレンチを設けて進めたが、いずれのトレンチからも周堀は検出されなかった。そこで、第1トレンチを墳丘よりに延長して調査を進めたところ、現墳丘の裾から若干入った位置に0.5mほどの高さで乱雑に積み上げられた石積み遺構がみられた。石積みは旧地表と思われる部分からであった。この部分は稲荷社の参道にあたり、崩れも著しいことから補強のために築かれた可能性もある。 (谷井)

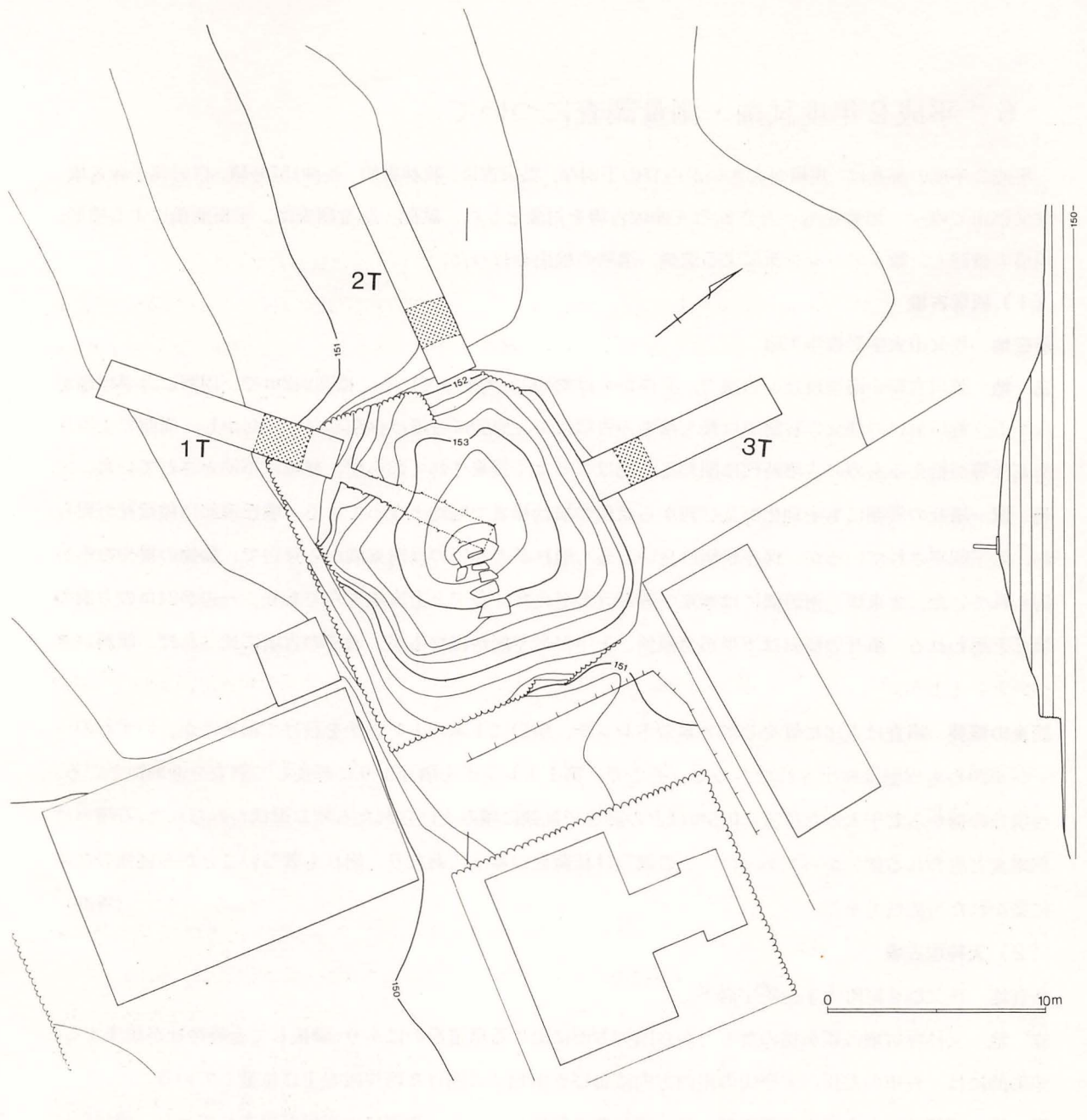
(2) 天神塚古墳

所在地 秩父郡皆野町大字金崎字岩下

立地 天神塚古墳は親鼻橋のたもとから国神方面にぬける県道沿いにあり、隣接して金崎神社が鎮座する。地形的には、荒川の左岸、宝登山の南西方向に延びる山地下に開けた河岸段丘上に位置している。

現況 墳麓は三方を宅地や畑で削られ、四角形に変形しており、周囲には石垣が組まれていた。墳頂部には大東亜戦争忠魂碑と書かれた石碑が建てられているが、直径のわりに低墳丘であり、土採りされている可能性がある。主体部は結晶片岩を用いた短冊形の横穴式石室で、南西に開口している。天神塚古墳の北東300mの地点には、やはり横穴式石室の開口する大塚3号墳がある。これらは秩父地方の代表的古墳群として、天神塚古墳を含めて4基が県指定史跡となっている。

調査の概要 墳丘の周囲に3本のトレンチを設け、墳形と周堀の有無の確認に努めた。周堀は保存状態が悪かったが、主に土層断面を細かく検討すると、下端が幅2m前後で巡ることが明らかになった。墳形は円墳とみられ、復元直径は15.6mとなる。墳丘は土によって築成されているが、10~30cm程度の大きさの片岩を大量に含んでいた。また、墳丘東側に設けた第2トレンチでは墳丘裾部の保存状態が良く、片岩を用いた貼り石が残っていた。出土遺物には円筒埴輪片と人物埴輪の腕の破片があるが、原位置での出土はなかった。天神塚古墳の築造年代は大塚3号墳などの胴張式に先行する短冊形の石室形態と円筒埴輪の特徴から、6世紀後半と推定される。現在のところ、秩父郡下で埴輪をもつことが確かな唯一の古墳である。 (若松)



第5図 皆野町天神塚古墳全体図

(3) 牧林古墳

所在地 吉田町大字下吉田字小暮3307

立地 赤平川左岸の河岸段丘上にあり、赤平川の支流、土橋沢右岸にあり、古墳は段丘崖に面している。下吉田地内は、この古墳の北西に芦田古墳群、北東に取方古墳群があるが、当古墳はこれらの古墳群とは離れて存在しており、近くは、南西100mに、行人塚古墳があるのみである。ただ古墳に係する遺物はなく、詳細は不明であった。

現況 墳丘の周囲は、上水を利用した水田と、桑畑となっている。また、墳丘上はかつて雑木林であったが、調査時伐採されていた。墳丘の頂上部には、かつて浅間社が祀られていた。墳頂南西部には参道状の窪みが見られた。裾部は畑地として利用されたため、方形状を呈していた。

調査の概要 調査は西辺、北辺、北東隅に3本のトレンチを設定して行ったが、周堀は検出できず、墳裾と、粘土層まで削られた平坦面が確認された。墳丘は粘土と茶褐色土で互層に版築されていた。規模は墳裾で長径約28m程をもつと思われる。また、表面上の精査では、遺物、主体部等に関する手がかりは得られなかった。

(大和)

(4) 長沖157号墳

所在地 児玉郡児玉町大字長沖字金屋885-1

立地 長沖古墳群は児玉丘陵の北側、身馴川の左岸の台地沿いに分布している。身馴川沿いの南北500m、東西1500mの範囲に157基の古墳が密集している。157号墳は古墳の密集した台地とは浅い谷を隔てた奥の台地にある。古墳は舌状台地の先端近くの馬の背部分の標高約120mのところ築かれていた。

現況 墳丘東側の裾近くまで宅地造成による削平が行われているが、墳丘部分はほぼ残っていた。墳頂部はかつて稲荷社があったためか、平坦であるが、本来の墳頂を均した程度であろう。測量図に示すように、墳丘全体でほぼ原型を残し、西側及び南側の墳丘裾では周堀の跡と思われる窪みも見られた。南側墳丘下半部が平坦化され、等高線が乱れているが、稲荷社に登る参道のため変形されたものである。

調査の概況 調査は墳丘の南の窪みに第1トレンチ、西の窪みに第2トレンチを設けて進めた。幅2m、長さ9.6mの第1トレンチでは原墳丘裾からはじまる幅6mの周堀が検出された。長さ10mの第2トレンチでは墳丘よりでは傾斜の緩い平坦面に続いて幅7mの周堀が検出された。第1トレンチに比べ、やや幅広く、深かった。墳丘よりで見つかった平坦面が全体にめぐっている可能性がある。墳丘南西側は平坦化され等高線が乱れていたため、張り出し部の有無を確認するため、第3トレンチを入れた。調査結果では、東よりの部分がブリッジ状にやや高い堀底が確認され、円墳の可能性が高くなった。墳丘の規模は測量図や2本のトレンチの調査結果から直径約32mと推定される。

出土遺物は、第2トレンチを中心に、黒斑のある横ハケの施された埴輪が検出された。長沖古墳群ではいくつかの古墳で発見されており、築造年代は5世紀前半を中心とした年代が考えられよう。(谷井)

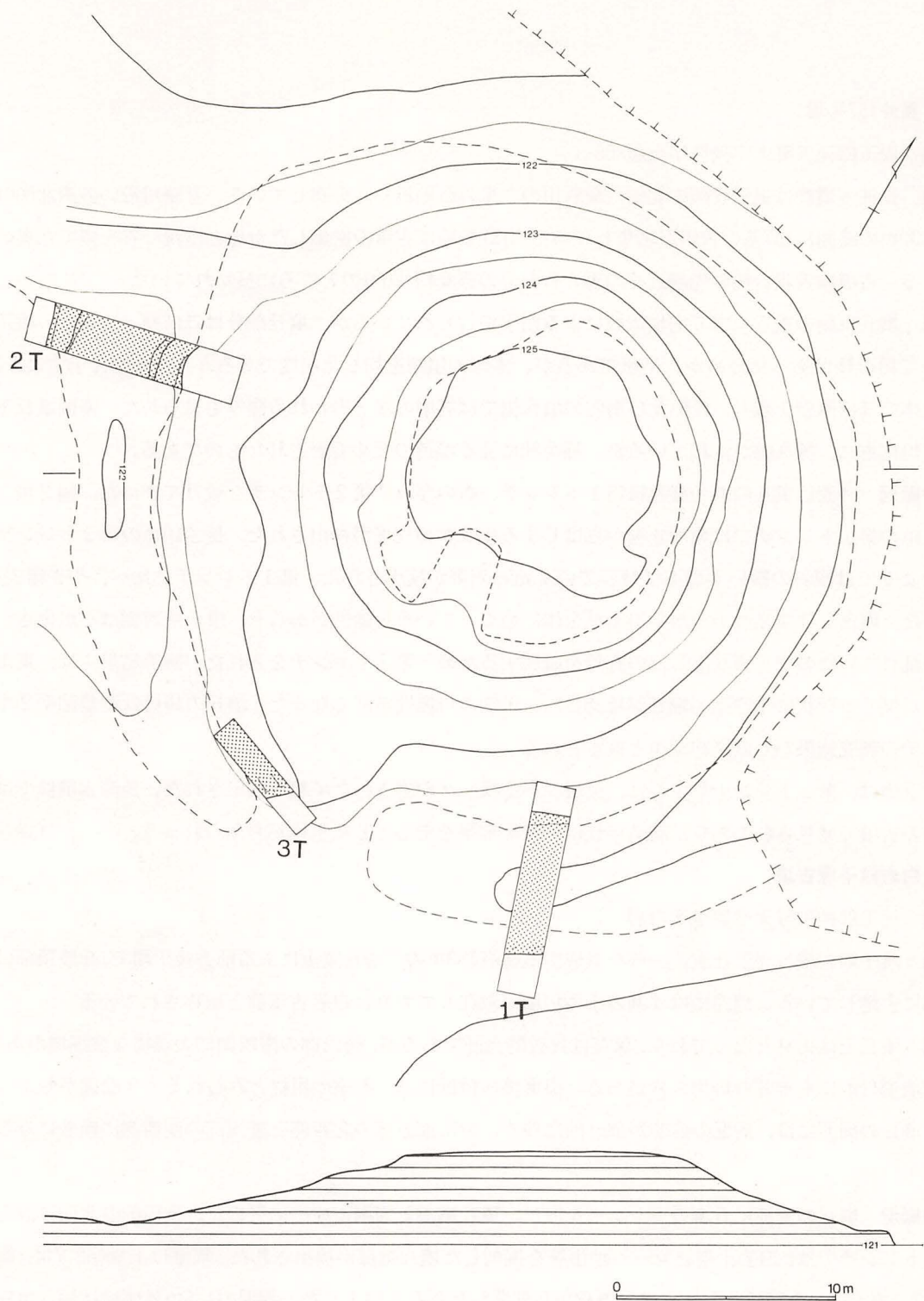
(5) 白岩銚子塚古墳

所在地 児玉郡神川町大字新里字白岩

立地 銚子塚古墳は児玉丘陵の一部を形成する標高133mの白岩丘陵上にある前方後円墳で、丘陵頂部付近の鞍部に占地している。周囲には4基の小型円墳が散在しており、白岩古墳群と総称されている。

現況 墳丘上は山林となっており、保存は比較的良好であるが、後円部の南西側に大規模な盗掘壕があり、前方部墳頂付近にも椎茸栽培用の穴がある。盗掘壕の付近には、石室の用材とみられる大きな礫が転がっていた。墳丘の周囲には、周堀の痕跡が部分的に残り、特に前方部の北西側と後円部の南西側に顕著にみられる。

調査の概況 墳丘の周囲に5本のトレンチを設け、墳丘裾部と周堀の検出に努めた。後円部の北側に設定した第1トレンチでは、旧表土層とローム地山層を掘削した墳丘裾部が検出された。周堀は上端幅2.7m、深さ0.3mで、覆土中から埴輪片とともに、墳丘から転落した葺石が出土した。周堀の1.5m外側には幅4m程の堀があり、外堀の可能性はある。墳丘北東側のくびれ部に設定した第2トレンチでは、墳丘裾部は削平されていたが、周堀の外側の立ち上がり部も検出されなかった。地山面が外側に傾斜することから、この部分には周堀のなかった可能性がある。前方部先端から外側に向けて設定した第3トレンチでは、墳丘裾部は墳麓の外側2.5mの位置で検出された。周堀の規模は広く、上端幅8.2m、深さ0.6mである。覆土中には円筒埴輪片のほかに、平安時代の遺物を含んでいた。墳丘南西側のくびれ部に設定した第4トレンチでは、良く叩きしめられた墳丘盛土が確認された。その外側は緩傾斜面をへた後、わずかに掘りくぼめられており、周堀と推定された。このことから、くびれ部には幅2m程度のテラスが設けられていたとみられる。墳丘の規模を、今回の測量調査とトレンチ調査の結果から総合して勘案すると、主軸長46m、後円部径28m前後で、従来の



第6図 児玉町長沖157号墳全体図

数値を改める必要はなさそうであるが、前方部幅については、隅角部の遺存が悪く、明確にしえなかった。立面的には、前方部が後円部に比較して極端に低く、約2.3mの比高差のあることが問題となろう。しかし、後円部の墳頂部の平面形が四角く、盛土等で本来の墳丘に改変が加えられているとみられるので、この差は少し縮まる可能性がある。出土遺物には、円筒埴輪片、馬や器財などの形象埴輪片、須恵器甕片などがある。円筒埴輪の特徴から、築造年代が6世紀であることは動かないが、詳細については墳形や遺物の検討をへた上で明らかにしたい。

(若松)



第7図 神川町白岩銚子塚古墳全体図

7 お わ り に

県内の古墳の所在と主要古墳の範囲確認を中心とした古墳詳細分布調査は、平成元年度から5ヵ年計画で開始した。初年度は入間・比企郡市、2年次目は秩父・児玉郡市を対象に実施した。調査の概要については年度の末に報告すべきであったが、諸般の事情により2年次目にまとめて報告することになった。

各年次の概要は、以上述べてきたとおりであるが、若干気づいた点に触れておきたい。

初年度は県内でも最も古墳の集中している地域である比企郡市が含まれていた。また、入間・比企郡市とも開発事業の盛んな地域であり、すでに消滅している古墳も多いことから、所在確認の難航が予想された。

そこで、調査専門委員にお願いした諸先生からのアドバイスもあって、地元の事情に詳しい市町村教育委員会の文化財担当者を中心に地区調査員をお願いすることにした。また、古墳が特に多い地域では複数の方を委嘱した。各地区調査員の多大な努力により、従来知られていた古墳をはるかに越えるカードの提出があり、大きな成果が挙げられたように思う。

入間・比企郡市の概況調査では、都市化の進んでいる地域で従来知られている古墳がすでに消滅している例も多かったが、事前の発掘調査で周堀のみが発見されている例がかなり見られ、全体の数を増やす結果となったようである。また、滑川町の円正寺古墳群のように、畑地化されているが、一面に埴輪片が散布しており、注意して地形を見ると、わずかに古墳の痕跡のうかがえた例もあった。また、飯能市や鶴ヶ島町の一部の古墳のように、中世以降の塚と思われるものもあった。

詳細調査では、今後の保存に役立てるという観点から地元教育委員会と相談し、5か所を選定し、進めた。県指定史跡の坂戸市雷電塚古墳は、この地区の代表的古墳であるが、墳丘のみが指定範囲だった。今回の調査で本来の古墳の範囲がおおよそ明かになった。また、県内でも最古式の前方後方墳と考えられていた吉見町山の根古墳も、地元教育委員会の協力と地権者の理解で今回初めて調査することができた。墳丘は周囲を削りだして造られていることが明らかになったほか、くびれ部周辺を中心に土器の出土があり、初期古墳であることを裏付けることができた。滑川町の天神山横穴墓の調査でも地元で行った磁気探査とあわせて、相当数の横穴墓が存在することが確認できた。

2年次に当たる平成2年度の調査では、県内で最大の古墳が密集している地域である児玉郡市と山岳地帯を含む秩父郡市が対象であり、困難が予想された。児玉郡市の場合は、一つの丘陵に何百基もの古墳が存在するところがあるため、東松山市の場合と同様、2名の方に地区調査員をお願いした市町村もある。秩父郡市の地形は山地と河岸段丘から構成されるという他の地域と異なった地勢であり、判断の難しい塚の多いことが予想された。幸い最近各市町村に担当者が配置されるようになったため、各担当者と相談しながら進めることができた。最も難しかったのは、崩れた古墳と石塚との区別であったが、石の積まれ方や塚に石のほか、土が見える事などから、数多くの古墳にあたって行くと区別できる場合も多い。

詳細調査では、児玉郡市では比較的調査が進んでいることもあって、今後保存の可能性がある児玉町長沖157号墳、神川町白岩銚子塚古墳を選んだ。秩父郡市では、荒川の谷筋最奥の古墳といわれた秩父市狐塚古墳、吉田川の谷筋の大型円墳と考えられた吉田町牧林古墳、県指定史跡で荒川の谷筋で現在埴輪を持つ唯一の古墳といわれる天神塚古墳を選んだ。調査結果はすでに述べたとおりであるが、一定の成果は上げることができたように思われる。

今までの調査での反省点も多いが、今後の調査を進めるに当たり、以上の点に注意を払い、地元教育委員会と緊密に連携しながら進めていきたい。

(谷井)

あ と が き

近年、県土における大規模開発の波は、県南地域は申すに及ばず、過疎化傾向の見られる県北地域にまで及んでいます。それに伴い県内に遺存する埋蔵文化財やその遺構の破壊、消滅には著しいものがあり、それらを県土の開発と調和させて、県の歴史と文化を語る貴重な文化財として保存・活用を図っていくことは、次代に対する我々の重要な責務と考えられます。

とりわけ、県域に広範に分布する古墳については、その所在地の地理的条件からしばしば開発の対象とされ、その保護・保存は、最近の目を見張る学術情報の提供と相俟って、広く国民の関心事となっています。これらの古墳を無計画な開発の手から守り、適切な保護措置を講ずるには、まずもって県下における古墳の所在や保存状況を正確に把握し、必要により確認調査を加え、各古墳の成立期や構造・規模の調査、及び関連基礎資料を蒐集し、データベース化する必要があります。そのうえで開発行為に対する調整や、古墳保存計画策定の基礎資料とし、併せて県民学習の教材として活用することが望まれます。

そこで県教育委員会では、文化財保護行政を進める立場から国庫補助金を得て、平成元年度から5か年間の計画をもって「埼玉県内所在古墳詳細分布調査」(遺跡詳細分布調査)を実施することといたしました。調査は3人の専門の先生方を調査専門委員にお願いし、その助言と指導を得ながら教育局指導部文化財保護課と当館が事務局を担当して行うことにいたしました。具体的には、調査地区を単位として古墳群の分布調査、聞き取り調査を主とする概況調査、必要に応じて範囲確認の試掘調査や測量図作成を行い、併せて全県にわたる関連資料調査も実施しました。現地調査については、地区毎にお願いした地区調査員と関係市町村教育委員会等の格別な協力を得ることができました。その結果、2年間の調査成果に限ってみても、先の昭和32～40年度にかけて調査された基数を大巾に上回る古墳を確認でき、さらに数々の新知見を得ることができました。

本書は、調査を開始した平成元年度(入間・比企郡市)と、第2年次の同2年度(秩父・児玉郡市)の調査概況の報告書であります。なお、この事業はあと3年を要し、最終年次の平成5年度には補足調査も含めて調査報告書としてまとめる計画であります。従って調査終了地区を含めて、今後新しい情報が見出されることが多いと思われまますので、引き続いて関係各位からの情報提供を切に期待する次第です。

終わりに、調査に当たり格別のご厚配を賜った地主各位や発掘調査に参加された地元の皆様方、並びに御多用ななかをご指導、ご協力くださった調査専門委員・地区調査員・文化庁・関係市町村教育委員会に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成3年2月12日

埼玉県立さきたま資料館長

大村 進

古墳詳細分布調査概報

1

平成3年3月15日

発行	埼玉県教育委員会
編集	埼玉県立さきたま資料館
印刷	関印刷株式会社